Shinrin RANGER あきる野

# 森林レンジャーあきる野新聞

## 未来に向けて里山再生Ⅱ

Vol.181　2026年11月号
発行：森林レンジャーあきる野（杉野）

菅生の埋立地での里山再生

色々な方にお世話になりながらコナラが育っています。

この場所は将来的に「環境学習」の場として利用できればと考えています。

そこで、東京都山岳連盟（都岳連）の自然保護委員会の新人研修の場として10月4日に研修を行いました。この場所はイノシシやニホンジカの闊歩する場所であり、外来植物のアメリカセンダングサ、セイバンモロコシ、ヨウシュヤマゴボウなども繁茂しているところです。獣害の心配だけでは木を育てることは難しく、除草管理も極めて重要なことになります。

今回は、研修という名の「労働」を提供していただきました。

**Think globally, act locally.**

**地球規模で考え、足元から行動する**

**をテーマにしました**

研修では、若干の座学もあり、日本の森は世界に誇れる素晴らしい森で、OECD加盟国（38ヵ国）の中で、国土面積に対しての森林面積は世界第三位（フィンランド、スウェーデンに次いで日本）などの話をして、日本は森の国だと理解してもらいました。

しかし、森の国「日本」は、戦後の拡大造林の結果であり、江戸時代の浮世絵を見ればわかるように、当時は背景の山ではマツやスギがポツン、ポツンと生えている疎林が日本の原風景でした。日本でこれほど森に囲まれた時代は過去には無く、誰も経験したことが無い「森の環境」だということも理解してもらいました。

里山は、1960年代の燃料革命で、薪炭利用が激減して、それまで定期的に伐採していたコナラ林も切られることなく50年以上経過した大径木のコナラが里山に林立しています。

人類が薪炭利用を始めた時代から、薪を使わない時代になり、大径木が林立する里山も初めての経験となるなどの話をしました。



パッチディフェンスの周りは草刈り機で刈り終えたので、参加者には柵の中に潜り込んでの草取りをお願いしました。



草取り後は、シカやイノシシに寄りかかられ、つぶれた柵の修理をお願いしました。除草・獣害対策など、原野での植樹・育林の大変さを経験してもらいました。



2025/11/30にドングリを親子で播種してもらいました。



植えられたドングリは1年足らずでこれだけ育ちました。まだまだ植栽はできません。早くてもあと1年、本来なら3年は苗畑管理になります。

ここで獣害に合うと、多くの苗木が一度にダメージを受けるので、まだまだ気が抜けません。

都岳連の作業で3区画が残ってしまったので、10月17日に森林サポートレンジャーに残りの草取りのお手伝いをお願いしました。参加者は少なかったですが、除草と柵の修理はすべて完了しました。皆様、本当にありがとうございました。







天気にも恵まれ、秋晴れの下で汗を流しました。

草かコナラか分からないほど繁茂したアメリカセンダングサを抜きとるとそれなりに育ったコナラが姿を現しました。

センダングサは結実前だったので来年は少しは数を減らすと思います。今回も柵を修理してパッチディフェンスの完成です。

●パッチディフェンスについて

小さな区画を多数作って管理するのは手間がかかります。

大きな面積を柵で囲えば植栽された樹木の周りだけ管理すればよいのですが、あえてこのパッチディフェンスを選択しました。これは一人でも簡単に柵の設置・修理ができること、1つの柵がダメージを受けても他の区画は守られると考えてます。1つの大きな柵は一度、動物が侵入すると中で大きな被害が出ることがあります。



都岳連の研修で、研修の1番初めにコナラの1枝をビニール袋で覆い、テープで密閉して、ストローで呼気を吹き込み、袋内の$CO_2$濃度を3000ppm以上にして作業終了後に袋内の$CO_2$濃度を計ると300ppm以下まで下がっており、光合成で確実に$CO_2$が1/10に減ったのを確認しました。

**植物は確実に空気中の二酸化炭素を吸収して炭素を取り込み炭水化物を作り、余った酸素を放出しています。**

**市民の協力のもと100本の樹木が大きく育ち、100トンの$CO_2$（二酸化炭素）を固定する森ができることを祈っています。**

（杉野）